

かい ぎ ろく
会 議 録

かいぎめいしょう 会議の名称	へいせいねんどだいにかいこまきしたぶんかきょうせいきょうぎかい 平成26年度第2回小牧市多文化共生協議会について					
かいさいにちじ 開催日時	へいせいねんがつにちげつごご7じ～8じ30ぶん 平成26年10月27日(月)午後7時～8時30分					
かいさいばしょ 開催場所	301かいぎしつ 301会議室					
しゅつせきしゃ 出席者 およ 及び けつせきしゃ 欠席者	○出席者 【委員】 さわきいんちようちいきかつせいかえいぎやうぶじちようつぽいいんさいれんじ 澤木委員長(地域活性化営業部次長)、坪井委員、西連寺 委員、宮田委員、上原委員、比嘉委員、柿原委員、井本委員、 もはめどしやーきるいいんあおやまいいんおおしまいいんなかのいいん モハメドシャーキル委員、青山委員、大島委員、中野委員 (こまきけいさつしよ 小牧警察署) 【事務局】 たけいちかちようがんだうかかりちようかわぞえしゅじ 武市課長、丸藤係長、川副主事 ○欠席者 つぽやいいんこまきしこくさいこうりゅうきょうかい 坪谷委員(小牧市国際交流協会)					
ぼうちようかひ 傍聴の可否	☒ か 可	☐ ひ 否	ぼうちようていいん 傍聴定員	10	ぼうちょうにんずう 傍聴人数	0
かいぎしだい 会議次第	1かいかい 開会 2あいさつ あいさつ 3ないよう 内容 (1)ぜんかいはるかえ 前回の振り返り (2)さいがいじたげんごひようじしーとさくせい 災害時多言語表示シートの作成について (3)たぶんかきょうせいすいしんばんふれつとさくせい 多文化共生推進パンフレットの作成について (4)こまきしたぶんかきょうせいすいしんばんらみなお 小牧市多文化共生推進プランの見直しについて 4た その他					
といあわさき 問合せ先	こまきしやくしよちいきかつせいかえいぎやうぶしていぶろもーしよんか 小牧市役所地域活性化営業部シティプロモーション課 にぎわい創出係 そうしゅつがかり					
かいぎないよう 会議内容	べっしさんしょう 別紙1参照					

ぜんぶきろく せうてんきろく
☐ 全部記録 ☒ 要点記録

	かい 会	ぎ 議	ない 内	よう 容
1. ^{かいかい}開会 ・^{しみんけんしょうしょうわ}市民憲章唱和				
2. ^{あいさつ}あいさつ ^{さわき いん ちょう}澤木委員長 ^{きょう}今日の^{かいぎ}会議では、^{さいがい じ}災害時に^{そな}備えた^{たいさく}対策と^{ぜんかい}前回の^{かいぎ}会議で^{はな}話し合っていた^{ばん ふ れ っ と}いた^{かくにん}だいた^{た ぶん かきょうせいすいしん ぶ ら ん}パンフレットの^{みなお}確認、^{はな}多文化^あ共生^{おも}推進^{はな}プランの^あ見直しについて^{おも}話し合っていた^{おも}きたいと思^{おも}う。 ^{いいん}委員の^{みな}皆さんから、^{た ぶん かきょうせいしやかい}多文化共生社会の^{じつげん}実現に^む向けた^{いけん}さまざまな^{あ い で あ}ご意見や^{いけん}アイデアを^あいただきながら、^{こまきし}小牧市の^{し さ く}施策に^い活かして^いいきたい^{かんが}と考えて^{かんが}いる。				
3. ^{ないよう}内容 (1) ^{ぜんかい}前回の^ふ振り返り ^{じむきよく}事務局：^{かわぞえ}川副 ^{ぜんかい}前回の^{かいぎ}会議では、^{ばん ふ れ っ と}パンフレットの^{た ぶん かきょうせいすいしん}こと、^{た ぶん かきょうせいすいしん}多文化共生推進^{ぶ ら ん}プランの^{はな}ことを^あ話し合っていた^{ばん ふ れ っ と}いた^{はな}だいた^あ。パンフレットの^{はな}話し合いの^あとき^{はな}には、^{みな}皆さんの^{みちか}身近な^{たいせつ}こと^{おも}で^き大切だと思^きうことを^{か お み し}お聞きし、「^{ひつよう}まずは^ひ顔見知^{こうりゅう}りになる^{たす}ことが^{かんけい}必要^{きず}」^{いけん}と^{いけん}いった^{いけん}ご意見^{いけん}を^{いけん}いただき^{いけん}た。 ^{た ぶん かきょうせいすいしん ぶ ら ん}多文化共生推進^{はな}プランの^あ話し合いでは、^{ねんまえ}5年前、^{ねんまえ}10年前と^{いま}今を^{くら}比べて、^{へんか}どのような^き変化^{いぜん}があ^{ちいき}ったか^ーをお^ー聞きし、「^{まも}以前より^{いけん}地域の^{こま}ルールは^{そうだん}守^{いけん}られて^{いけん}きた^{いけん}」^{いけん}と^{いけん}いった^{いけん}ご意見^{いけん}があ^{いけん}たり、「^{ばしよ}困^{た ぶん かきょうせい}った^{ひつよう}とき^{いけん}に^{いけん}相^{いけん}談^{いけん}で^{いけん}きる^{いけん}場所^{いけん}が^{いけん}わ^{いけん}から^{いけん}ない^{いけん}」^{いけん}と^{いけん}いった^{いけん}、^{いけん}まだ^{いけん}まだ^{いけん}多文化共生^{いけん}が^{いけん}必要^{いけん}だ^{いけん}という^{いけん}意見^{いけん}も^{いけん}あ^{いけん}った。 ^{きょう}今日の^{かいぎ}会議では、^{ぜんかい}前回の^{ないよう}内容を^{はな}ふ^あま^{すす}えて、^{はな}さらに^あ話し^{すす}合い^{すす}を^{すす}進^{すす}めて^{すす}い^{すす}きたい^{すす}と^{すす}考^{すす}えて^{すす}いる。				
(2) ^{さいがい じ た げ ん ご ひ ゅ う じ し - と さくせい}災害時多言語表示シートの作成について ^{じむきよく}事務局：^{かわぞえ}川副 ^{さいがい}災害が^お起^{がいこくじん し ゐ ん}きた^{しえん}とき、^{ひつよう}外国人^{ひと}市民^いは^ち支^い援^ちが^い必要^いな^い人^いと^い位^い置^いづ^いけ^いら^いれ^いて^いい^いる^いが、^{ふだん}普段^{じゅんぴ}から^{がいこくじん}準備^{しえん}を^{ひと}し^{ひと}て^{ひと}お^{ひと}く^{ひと}こ^{ひと}と^{ひと}で、^{さいがい じ た げ ん ご ひ ゅ う じ し - と}外国人^{おお}を^{さいがい}支^お援^おする^お人^おに^おな^おる^おこ^おと^おが^おで^おき^おる。 ^{さいがい じ た げ ん ご ひ ゅ う じ し - と}災害時多言語表示シートは、^{おお}大^{さいがい}きな^お災害^おが^お起^おきた^お場^お合^おに^お備^おえ^おて^お作^お成^おする^おも^おの^おで、^{じょうほうていきょう}情報^{ひなん じょ}提供^{がいこくじん}や^{にほんじん}避難^{たが}誘^よ導^{せいかつ}を^{せいかつ}ス^{せいかつ}ム^{せいかつ}ー^{せいかつ}ズ^{せいかつ}に^{せいかつ}行^{せいかつ}う^{せいかつ}こ^{せいかつ}と^{せいかつ}が^{せいかつ}で^{せいかつ}き、^{せいかつ}また、^{せいかつ}避^{せいかつ}難^{せいかつ}所^{せいかつ}で、^{せいかつ}外^{せいかつ}国^{せいかつ}人^{せいかつ}と^{せいかつ}日^{せいかつ}本^{せいかつ}人^{せいかつ}の^{せいかつ}お^{せいかつ}互^{せいかつ}い^{せいかつ}が^{せいかつ}良^{せいかつ}い^{せいかつ}生^{せいかつ}活^{せいかつ}				

環境^{かんきよう}をつくることにもつながる。今日は皆さんにどんな内容^{ないよう}のシート^{しーと}が必要^{ひつよう}かを考えて^{かんが}いただきたいと思います^{おも}と思う。

澤木委員 長 このシート^{しーと}は、大きな災害^{さいがい}が起きたときに避難所^{ひなんじょ}の壁^{かべ}などに何カ国語^{なん か こくご}かに翻訳^{ほんやく}した必要^{ひつよう}な言葉^{ことば}を貼^はって、それを見た外国人^{がいこくじん}の方が動^{うご}けるように準備^{じゅんび}しておくものである。

実際^{じっさい}に災害^{さいがい}が起きたとイメージ^{いめーじ}して、どんな言葉^{ことば}が必要^{ひつよう}かを皆さんに考^{かんが}えていただきたいと思います^{おも}と思う。

西連寺委員 「水^{みず}は一人^{ひとり}1本^{ぼん}です」といった基本^{きほんてき}的な言葉^{ことば}も必要^{ひつよう}。小牧^{こまき}はなかなか災害^{さいがい}がないので、想像^{そうぞう}しにくい。

大島委員 飲み物^{のみもの}や食べ物^{たべもの}を配布^{はいふ}する時に、今回^{こんかい}配布^{はいふ}される分^{ぶん}が一日^{いちにち}分^{ぶん}なのかどうか^かもわからない。「次^{つぎ}の配布^{はいふ}は〇〇時^じから」と書いてない^かと、悪気^{わるき}はなくても一人^{ひとり}で何個^{なんこ}も持^もっていく人^{ひと}がいると思う。「無料^{むりよう}」という^{おし}ことも教^{おし}えないといけない。避難所^{ひなんじょ}も誰^{だれ}でも行^いっていいものかもわからない^{おも}と思う。

上原委員 入口^{うへはら}や出口^{いりぐち}、荷物^{でぐち}の置き場所^{にもつ おき ばしょ}など避難所^{ひなんじょ}のルール^{るーる}が書いてあると良^よい。

井本委員 中国^{ちゅうごく}だと避難所^{ひなんじょ}を利用^{りよう}する場合^{ばあい}は金^{かね}がかかる。

比嘉委員 長く避難所^{ひなんじょ}にいとストレス^{す と れ す}を感じて体調^{たいちよう}を崩^{くず}す人^{ひと}も出てく^でると思う^{おも}ので、ドクター^{どくたー}と通訳^{つうやく}がいると良^よい。

中野委員 困^{こま}ったことを聞^きいてくれる相談窓口^{そうだんまどぐち}があると良^よい。

宮田委員 食事^{しょくじ}や医療^{いりようかんけい}関係^{けい}は重要^{じゅうよう}だと思^{おも}う。

柿原委員 名古屋国際センター^{なごやこくさいせんたー}の訓練^{くんれん}では、自分^{じぶん}もしくは家族^{かぞく}がどのよ^かうな怪我^{けが}をしたのかを記入^{きにゅう}するシート^{しーと}を活用^{かつよう}した。誰^{だれ}も知らない^し避難所^{ひなんじょ}に行くには勇気^{ゆうき}がいる。

宮田委員 連絡網^{れんらくもう}を作り、日ごろから近所^{きんじょ}の人^{ひと}と繋^{つな}がっていると何かあ^{なに}ったときに助^{たす}け合^あえる。

坪井委員 トイレ^{と い れ}の場所^{ばしょ}や寝^ねる場所^{ばしょ}、お風呂^{ふ ろ}、シャワー^{しやわー}の使用時間^{しようじかん}、食べ物^{たべもの}のもらい方^{かた}、家族^{かぞく}の安否情報^{あんぴじょうほう}を確認^{かくにん}する場所^{ばしょ}など、避難所^{ひなんじょ}のルール^{るーる}を説明^{せつめい}することが必要^{ひつよう}である。

澤木委員 長 外国人^{がいこくじん}の方は言葉^{ことば}がわからないために、避難所^{ひなんじょ}でのルール^{るーる}もわからない^{おも}と思うので、わかりやすい表示^{ひょうじ}をすることが大切^{たいせつ}であると皆^{みな}さんからご意見^{いけん}をいただいた。

事務局：丸藤 実際^{じっさい}に災害^{さいがい}が起きた直後^{ちよくご}は、通訳^{つうやく}がいなかったり翻訳^{ほんやく}が

できないことも想定されるため、災害多言語表示シートを避難所に置きたいと思う。

次は、この内容に関連して、避難場所の確認と災害時に必要なものを皆さんで考えていただきたいと思います。ご自分の避難所を確認していただきたいと思います。

ほかにも、災害が起きたときに備えて、自分で食べ物や飲み物などを準備しておくことが大切である。どんなものを自分で用意しておくといいか、皆さんで考えていただきたいと思います。

坪井委員 飲み物、食べ物、ろうソク、懐中電灯、ヘルメット、薬、携帯ラジオ、防寒具、雨具、下着、ロープ、お金など。

柿原委員 食品用ラップ、小さいビニール袋、薬、マスク、アルミシートなど。

比嘉委員 外国人の方は、自分の国の領事館の連絡先が必要。あとはトイレ、トイレットペーパーなど。

中野委員 災害が起きると治安が悪くなるので、貴重品はすぐに持ち出せるようにしておくことも必要である。

井本委員 ウェットティッシュや消毒できるもの、外国人の方はパスポートが大事。

大島委員 領事館以外にも家族の連絡先なども必要。携帯電話が使えるいこともあるので、テレフォンカードを持っておくと公衆電話が利用できる。簡易用のトイレなども持っているといい。

澤木委員長 たくさんのご意見をいただいたので、何が必要かわかってきたかと思う。物資が届くまでに時間がかかるので、水や食料は最低でも3日分、できれば1週間分くらいは用意しておくといいと思う。

こういった防災に関する情報は、外国語版生活情報にも掲載しているので、見ていただきたいと思います。

(3) 多文化共生推進パンフレットの作成について、(4) 多文化共生推進プランの見直しについて

事務局：川副 皆さんからいただいたご意見を基にパンフレットを作成中である。各国でのあいさつや家庭料理、多文化共生推進プラン、小牧市の取り組みなどを掲載しているので、中身の確認をお願いしたい。

多文化共生推進プランの見直しについては、内容が今の状況と合っているか、その重要性などについてご意見を伺いたい。

澤木委員長 それぞれの国の言葉であいさつが書いてあるが、母国語で違っている点などがあれば教えていただきたい。

青山委員 中国語のおはようは、「さお しゃん はお」の方がいいと思う。

大島委員 日本人がわかる読み方でいいか。

事務局：丸藤 日本人もあいさつができるように、日本人がわかる読み方にしたい。

澤木委員長 続いて、多文化共生推進プランの見直しについて考えた。このプランには、多文化共生を進めていくうえで、必要なことが具体的に書かれている。今日は、自治会活動について皆さんのご意見を伺いたいと思う。

宮田委員 回覧や広報、外国語版広報があるが、外国の方は漢字がわからないため、私たちが行って説明することもある。外国人の方がわかるように作って欲しい。

澤木委員長 毎月1回、外国語版生活情報誌を発行しているが、やさしい日本語があり、小牧市のホームページの中からも手に入るようになっている。情報を伝えることが大事。

外国人市民の方は自治会をどのように考えているか伺いたい。

大島委員 自治会は立派な組織だと思う。しかし自治会だけではなく、国際交流協会や学校など、イベントが多くて、参加できないこともある。ある人は、学校行事には一生懸命参加しているが、自治会には参加できていないといったことがある。参加したくないのではなく、時間的、経済的に余裕がなくて参加できていないと思う。

宮田委員 私の自治会で昨年ブラジルの方に役員をお願いし、自主防災をやっていたいたおかげで、自治会の活動や自治会の人たちのことを知っていただけたと思う。知っていただけると参加しやすくなるのではないかな。

澤木委員長 何で必要なかわからない人もいると思う。困ったときに話を聞いてくれる窓口があると自治会のことも知ってもらえるのではないかな。

次回、今日のような話を伺い、問題点を洗い出していきたいと思う。

事務局：丸藤 次回は多文化共生推進プランの中身についてご意見を伺
 いたいと思う。今日は防災のことやパンフレットの話を話合っ
 いただいたが、家族や知り合いにも伝えていただき、多文化共生を広め
 ていただきたいと思います。

4 その他

事務局：丸藤 11月30日に小牧市国際交流協会設立20周年記念
 式典とふれあいフェスタが開催されるので、ぜひお越しいただきたい。